

1 令和5年度自己評価の実施

期間／令和 6 年 2 月 14 日～令和 6 年 2 月 15 日

実施人数／17 名

2 集計

a…十分わかる・十分できている

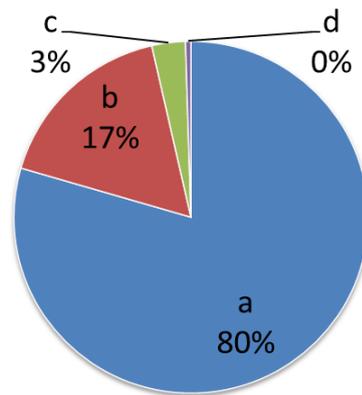
b…おおむねわかる・おおむねできている

c…あまりわからない・やや不十分

d…ほとんどわからない・改善を要する

評価項目	a	b	c	d
(1)保育理念	81	44	9	2
(2)子どもの発達 (養護、健康、食事、人間関係、環境、言葉、表現、乳児保育、延長保育、障がい児保育)	1090	215	47	9
(3)保護者に対する支援 (喜びの共有、保育内容の説明・個別支援、地域保育所機能の開放、関係機関との連携)	342	98	18	1
(4)保育を支える組織的基盤 (健康安全の実施体制、保育計画と内容の自己評価、職員の資質向上)	407	52		
※数値は、評価項目を構成する複数の評価基準項目ごとに a から d までの評価に該当する職員数の累計数である。	1920	409	74	12

3 評価の割合



4 評価結果と今後の課題(総評)

総合的な評価としては、a 評価が 80%と昨年度比 14 ポイント増となった。ここ 1、2 年ほど全国で保育園の不祥事や不適切事案が相次いでマスコミに取り上げられたことで、職員の適切な保育実践への意識が向上したと思われる。また都度職員間で事案の内容を共有し、研修や個人面談を通じて職員に適切な保育の実践を求めてきたことが寄与したと思われる。

- 1 保育理念:a 評価が 60%と昨年度とほぼ横ばいで、4 つのカテゴリーの中で a 評価が最も低い。保育理念の中の基本的設問 1、2、3 の項目で c、d 評価の人が複数名いた。基本的事項なのでしっかりと把握しておく。
- 2 子どもの発達:a 評価が 80%と昨年度比 12 ポイント増となった。一人ひとりの子どもの性格や発達状況、個人差等をクラス職員で共有しかつ職員個々が留意して保育に取り組んだ結果である。
- 3 保護者支援:a 評価が 75%と昨年度比 13 ポイント増となった。引き続き子どもの育つ姿を保護者と共有し、また保護者の子育ての心配事や困りごと相談などに対応できるスキルの向上に努めていく。
- 4 保育を支える組織的盤:a 評価が 89%と昨年度比 20 ポイント増となった。園児の健康や安全に関する各種マニュアルの見直しとその周知や研修の実施等が良好な結果につながったと思われる。

5 評価結果と今後の課題(項目別)

<p>(1)保育理念</p>	<p>保育理念の基本的設問 1、2、3 項目に c、d 評価の方が一定数いた。以下の内容は各自しっかり把握していく。</p> <p>設問1: 児童はその生活を保障され愛護されるという理念の根拠は→児童福祉法第 1 条</p> <p>設問2: 保育士資格の法定化による保育士の定義とは→児童福祉法の登録を受け、専門的知識・技術をもって児童の保育と児童の保護者に保育に関する指導を行うことを業とするもの。(児童福祉法第 18 条の 4)</p> <p>設問3: 児童憲章の理念とは→「児童は人として尊ばれる」、「児童は社会の一員として重んぜられる」、「児童はより良い環境の中で育てられる」という3つの基本理念。</p>
<p>(2)子どもの発達支援</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 養護:「子どもに分かりやすい言葉で穏やかに話しているか」の項目でc評価の人が数名いた。分かりやすい言葉での伝え合いを率先して教えるのは保育士の大事な役割である。日常生活に必要な言葉を身に付け、伝え合うことができるように保育士自らも声がけ・会話には十分注意していく必要がある。 2 食事:「食事前の手洗い励行・清潔な習慣援助」、「残食しないこと・偏食強制はないか」は a評価。園児の中には小食・偏食の子どもがいるため、食べ物や食育に関する絵本を見せたり、励ましの声がけにより、自分から食べようとする気持ちを育み、偏食をなおすきっかけにつなげていく。 3 言葉:「正しい言葉や声の大きさに配慮して子どもに対応しているか」の項目でc評価の人が数名いました。保育士の言葉(言動)は子どもの成長に影響を与えることを自覚して、適切に対応していく。 4 表現・乳児保育・長時間保育:カテゴリーの各項目はa評価が多く良好だった。 5 障害児保育: 配慮を要する園児が増加傾向にあることから、職員の障害児研修の受講を計画的に実施していく。
<p>(3)保護者に対する支援</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 「子どもの成長の喜びを共有」、「保育内容の説明・応答責任、個別支援」の各項目の多くがa評価だった。子どもの育つ姿を保護者と共有し、保育内容の説明・応答責任をきちんと果たすことは保護者の信頼感、安心感につながるため、引き続きより良い保護者への接遇を心がけていく。 2 「地域保育所機能の開放」、「関係機関との連携・情報共有」の各項目は、a、b評価が大多数で良好であった。
<p>(4)保育を支える組織的基盤</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 「健康及び安全の実施体制」、「保育の計画と保育内容の自己評価」の各項目合計の 9 割はa評価。健康安全実施体制に関わる各種マニュアルを見直しし、計画的に職員研修を行っていることが自己評価の好結果につながっている。 2 「職員の資質向上」の各項目は、a評価が 8 割、b評価が 2 割でした。資質向上につながるようなテーマや項目は積極的に職員研修に取り入れていく。